

## ● 甲田ゆり子の2013年12月活動報告 ●

第4回定例会(11/22～12/5)

新井5町会創立60周年記念祝賀会

ユニークダンスを楽しむ区民の集い(勤労福祉会館)【写真①②】

しろさぎ桜苑(軽費老人ホーム・小規模多機能型居宅

介護施設)視察【写真③】

補助220号線現況測量説明会(上高田区民活動センター)

大阪市視察(マンション認定制度について)

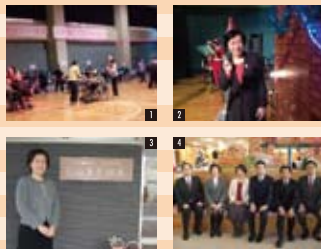
京都市視察(こども未来館)【写真④】

ボーダレスアートミュージアムNO-MA見学(滋賀県近江八幡)

中学生意見発表会(なかのZERO)

西武新宿線連続立体交差化事業工事概要説明会(平和の森小)

ハイティーン会議(区役所)



2013年  
12月

## ● 甲田ゆり子地域実績 ●



▲2013年7月  
道路注意看板設置 上高田2丁目56番 表裏



▲2013年8月  
防犯のため樹木の剪定 上高田5丁目5番1号棟  
上高田公務員住宅跡地



▲2013年9月  
道路注意看板設置 上高田3丁目28番



▲2013年10月  
たばこポイ捨て注意看板設置  
上高田5丁目9番 中野上高田公園



▲2013年8月  
道路標識(車両進入禁止)橋の東側に追加設置  
松が丘2丁目36番 江古田橋

## 甲田ゆり子連絡先

- 公明党控室 03-3228-8875 FAX 03-3389-8680
- ホームページ <http://koudayuriko.com/>
- ブログ <http://koudayuriko.com/blog/>
- Eメール [kouda-yuriko@aioros.ocn.ne.jp](mailto:kouda-yuriko@aioros.ocn.ne.jp)
- Twitter @KoudaYuriko
- Facebook 甲田ゆり子 または Yuriko Kouda て検索





こうだ

# 甲田ゆり子

# ニュース



■発行元:中野区公明党議員団 ■2014年 春号

こうだ!と決めたらまっくら! 生まれ育った中野を笑顔輝くまちに

### ご挨拶

日頃よりご支援を賜り大変ありがとうございます。区議会議員になって3回目のお正月を迎えました。この約2年半で500件を超える区民相談・要望を受け、多くの事を学ばせていただき、精一杯区政に生かせるよう邁進してまいりました。本年も区民の皆様への「声なき声」に耳を傾け、さらに誠実に仕事に取り組んでまいります。今後ともご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

甲田ゆり子

### TOPIX 「ボーダレス・アートミュージアムNO-MA」に行ってきました!



12月12日、大阪・京都の会派視察の帰りに、京都から電車で30分ほどの近江八幡市にある「ボーダレス・アートミュージアムNO-MA」を訪れました。

この館は、野間さんという方が所有している昭和初期から残る古民家を少し改装してできた全国でも珍しい公的美術館です。2004年6月にオープン以来、数々の「アール・ブリュット」作品展を開催してきました。

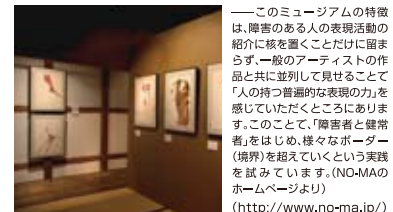
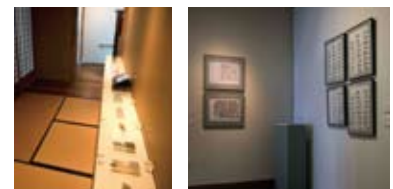
NO-MAを皮切りに、この数年間で全国各地にアール・ブリュットの美術館が作られ始めました。

現在、日本のアール・ブリュット作品展はヨーロッパを巡回しており、オランダ・イギリスで好評を博し、10万人を超える人々が鑑賞しました。

ヨーロッパ巡回展の事務局は、中野区にある社会福祉法人・愛成会であり、区内のいくつかの商店街では、アール・ブリュットで「街おこし」をし

ようという動きもあります。

私たちの心を一度つかんだら放さない、自然のままのダイナミックかつ繊細な芸術に魅了された人は、中野区内でも想像以上に多くなっている…と感じるこの頃です。



——このミュージアムの特徴は、障害のある人の表現活動の紹介に核を置くことだけに留まらず、一般のアーティストの作品と共に並列して見せることで「人の持つ普遍的な表現の力」を感じていただくことにあります。このことで、「障害者と健常者」をはじめ、様々なボーダー(境界)を超えていくという実践を試みています。(NO-MAのホームページより)  
(<http://www.no-ma.jp/>)

※作品写真は、滋賀県社会福祉事業局より提供いただきました。  
■Photo: ヨシダタイス ■写真提供: ボーダレス・アートミュージアムNO-MA



### 障害者施策について

バリアフリーマップについて新しい情報への更新体制を作れ

**甲田** 「なかの便利地図」の中のバリアフリーマップ(※1)は更新しないのか。また、もう少しわかりやすくリニューアルすることは考えていないのか。

**答弁** 「なかの便利地図」に掲載の施設の新設や廃止等については、広報分野で修正を行うことになっている。また、所管分野で更新を行うものもある(バリアフリーマップは福祉推進分野)。更新が必要なことについては、改めて庁内で十分周知を図っていく。「なかの便利地図」のリニューアルについては現在のところは考えていないが、ホームページと一体的に使いやすいものとなるよう検討したい。

**甲田** 特にバリアフリーマップについては、(ずっと)更新されていないようなので障害者の方への情報として、より現状に近いものへと早急に更新すべきと思うがどうか。

**答弁** もたらされた情報については適宜更新している。今後、情報提供の呼びかけについても工夫をし、情報を充実させていきたい。

**甲田** またもたらされた情報だけでなく区側から積極的に働きかけをお願いしたい。ホームページの更新とともに、紙ベースでの提供も大事。例えば駅周辺だけでもわかりやすいものをつくっていただきたい。また、障害者の方が訪れるような公共施設の窓口にも地域版バリアフリーマップがあるとよいと思うがどうか。

**答弁** 施設窓口において、それぞれのエリアごとの情報について案内できるような形のものを今後提供していきたい。各施設と調整していく。



#### ※1なかの便利地図

区のホームページに「なかの便利地図」あり。その中の一つのカテゴリとして、「バリアフリーマップ」がある。例えば駅周辺で車いすの障害者が「だれてもトイレ」のある場所を探すことができる便利なもの。しかし、長いこと更新されておらず、情報が必要になっていく部分があるため質問しました。

### 地域の見守り・ 支えあいについて

区が積極的に支え手の  
支援を図れ

**甲田** 高齢者の孤独死を防ぐには、町会・自治会への名簿提供だけでは不十分である。区の地域支えあい条例には、基本理念に「区が主体的に推進を図る」となっている。しかし現状では、まちの人たちからそのように見えていないのが実態ではないか。現在、各区民活動センターには職員が2名ずつ配置されているが日頃どんな仕事をしているのか伺う。

**答弁** 町会・自治会や民生委員の会議などに参加し、情報交換や相談を受け解決に向けた取り組みをしている。また、職員として地域の支援が必要な方を訪問もしている。今年度は高齢者の生活実態を把握するために80歳以上の日中独居高齢者を訪問している。

**甲田** 高齢者を訪問し実態を肌で感じることは大事。しかしそれがまだ区民には見えない。地域で顔が見えないと意味がない。地域で支え手となる重要な方との人間関係を築き、どんな支援が必要なのか明確にキャッチしければバックアップができる。そのためには、職員が会議やイベントだけでなく定期的に町会長や民生委員さんも訪問し、信頼関係を築くことが大切と考えるが、どうか。

**答弁** 日常的に地域と信頼関係を築き、地域が直面している問題をしっかりと捉え、ともに解決していく姿勢を持つことが大事であると考えている。このような役割や仕事への姿勢について、ご指摘の通り、確実に身につけるための研修の充実などを進めていきたい。

### 自転車対策について

危ない自転車を減らす方策を

**甲田** 若い人によるスピードの出し過ぎ、無灯火、車道の逆走など危ない自転車運転が横行している。若い人が加害者になるケースが多く、事故の怖さやルール、罰則などを知ることが大切。区は今年度から区役所で自転車安全講習会を土日の昼間等で開催しているが、参加者は高齢者が大半であり、20代・30代はほとんど参加していない。若者の参加者を増やすための考えはあるか。



**答弁** 今後は町会への呼びかけや区民活動センター運営委員会へ働きかけを行い、各種イベントが行われる場所へ出向き実施することなどを予定している。

**甲田** 町会、学校関係などの団体で捉えやすい人たちというのは、若い年代ではないと思う。ターゲットにすべき年代は、通勤・通学で駅の駐輪場を利用している人たちも多い。三鷹市では自転車安全講習へ参加した市民に駐輪場を優先的に割り当てているが、このような若者が参加して魅力のあるインセンティブをつけ、「中野区版・お得な自転車安全教室」として実施してはどうか。

**答弁** 区の利用受付方法などの工夫次第でインセンティブの可能性は生まれることが考えられる。区としては、実効性のある定期利用の優先受付について検討していきたい。若者への講習会の呼びかけや、参加しやすい方法を検討したい。



中野区の自転車安全教室に参加し、自転車シュミレーターを体験「右みて左みて後ろもみて、発車！」

### 文化・芸術の促進について

まちの活性化にもつながる文化芸術を応援せよ

**甲田** 文化・芸術には大きな力がある。人と人をつなぎ、共感を生み出し、地域のきずなを深める力、そして、世界を結ぶ力である。まちの中に自然と息づき、人々から注目され、称賛される文化芸術については、まちの活性化という観点からも、行政として後押しがあっても良いものと思う。中野区には大事な文化芸術発信拠点(なかのZERO、サンブラ、芸術小劇場)がある。これらを大切に、ますます充実させていくことが大切と考えるが、区の見解を伺う。



◀なかの芸術小劇場



なかのZERO▶

**答弁** 区に文化の拠点施設があることは区民が身近な場所で文化芸術に触れ、自ら活動に参加する契機となるものでもあり、また、まちのにぎわいにも寄与するものである。今後ともさらに充実・発展させていきたいと考えている。

**甲田** 一方、中野区には美術館がない。23区のなかで美術館がないのは中野区と杉並区だけと聞く。今後、中野駅周辺開発にあわせて、ギャラリーなども含め、区の芸術家の作品を披露する場の設置を検討してはどうか。

**答弁** 現在、なかのZEROにある3つのギャラリーが展示の会場として利用いただいている。利用率は年間平均5〜6割程度であり、さらに積極的なPRに努めたい。区としては今後さらに文化芸術の発展を推進し、これをもと以上に区民が文化芸術に主体的に参画し、ともに生きがいを見出す区民が増えていくことを目指したい。

**甲田** 生(き)のままの芸術と言われる、「アール・ブリュット」は、数年前から脚光を浴びはじめ、区内もいくつかの大きな商店街でアール・ブリュットの展示や関連のイベントを何度も開催している。まさに今、中野からアール・ブリュットが発信されつつある。多様な文化・芸術活動が交流できる拠点をづくりは、まちの活性化にもつながる。区は芸術活動を行う区民に対し、複合的美術館構想に向けた情報提供など積極的な支援をするべきでは。

**答弁** アール・ブリュットを活用した芸術による、まちの活性化の取組みについては、区も後援名義などの支援をしてきている。中野区都市観光ビジョンの中にも、文化・芸術活動へのPRの支援推進を位置づけている。これまでさまざまな広報や情報提供などを行っており、今後も支援していきたい。



11月17日、野方商店街・野方WIZで開催された「アール・ブリュットdeおこし展3」を見学。「アール・ブリュット」を推進する社会福祉法人聖成会の小林瑞恵さんと、商店街振興組合の榎本理事長と懇談。